成田空港活用協議会

平成２９年度　事業報告

（資料編）

目　　次

（１）誘客促進事業

ア　国内線就航先との交流促進・・・・・・・・・・・・・・・・１

イ　海外向け誘客促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

（２）空港利用促進事業

ア　関東圏でのナリタＰＲ・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

イ　ナリタファンの拡大に向けた取組・・・・・・・・・・・２３

（３）ビジネス支援事業

ア　会員の新たな事業・ビジネス展開に向けた協働の場づくり・・２７

イ　経済活性化セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

ウ　マーケットリサーチ・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０

（４）要望活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２

（５）会員提案の募集・具体化・・・・・・・・・・・・・・４４

（６）その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

（１）誘客促進事業

ア　国内線就航先との交流促進

北海道との相互交流の促進について

平成25年度から実施してきた北海道との意見交換などを踏まえ、平成27、28年度には相互交流を目的として、北海道・千葉交流パークゴルフ大会及びパークゴルフモニターツアーを道県において交互に実施した。

今年度は、相互交流の定着を目的として、北海道・千葉交流パークゴルフ大会IN北海道を実施し、北海道へのパークゴルフモニターツアーなどを行った。

また、更なる展開として、今後の民間同士による継続的な相互交流に向けた動きを促進していくために、「パークゴルフを通じた北海道と千葉県の交流促進に係る協定」を締結した。

［展開］

１　北海道・千葉交流パークゴルフ大会ＩＮ北海道及び千葉県からのモニターツアー

平成２７、２８年度に引き続き、平成２９年度は、「北海道・千葉交流パークゴルフ大会ＩＮ北海道」及び千葉県からのモニターツアーを実施した。

《パークゴルフ大会、表彰式・交流会》

（１）日　時：平成２９年１０月５日（木）８：３０～１４：３０

（２）場　所：札幌パークゴルフ倶楽部福移の杜コース

（３）内　容：

開会式（８：３０～９：００）

主催者挨拶（福移の杜コースオーナー・キャリアバンク㈱佐藤代表取締役）、来賓あいさつ、ルール説明、記念撮影

競技（９：００～１２：３０）

表彰式・交流会（１２：３０～１４:３０）

表彰、交流会主催者挨拶（成田空港活用協議会・平監事）、来賓紹介、乾杯、プレゼント抽選会

・参加者：１３９名

千葉県からのモニターツアー参加者　３９名

公募した北海道のパークゴルフ愛好者　１００名

なお、交流会には、北海道観光振興機構、関東パークゴルフ場協議会、千葉県、山武市、成田国際空港㈱に参加いただき、プレゼント抽選会の景品を提供いただいた。

（北海道庁、北海道経済連合会、北海道商工会議所連合会からは、景品を提供いただいた。）

《モニターツアー》

北海道・千葉交流パークゴルフ大会ＩＮ北海道の開催にあわせて、ＬＣＣや北海道でのパークゴルフの体験を目的としたモニターツアーを実施した。

（１）日　程：平成２９年１０月４日（水）～６日（金）
（募集期間：７月３１日（月）～９月１日（金））

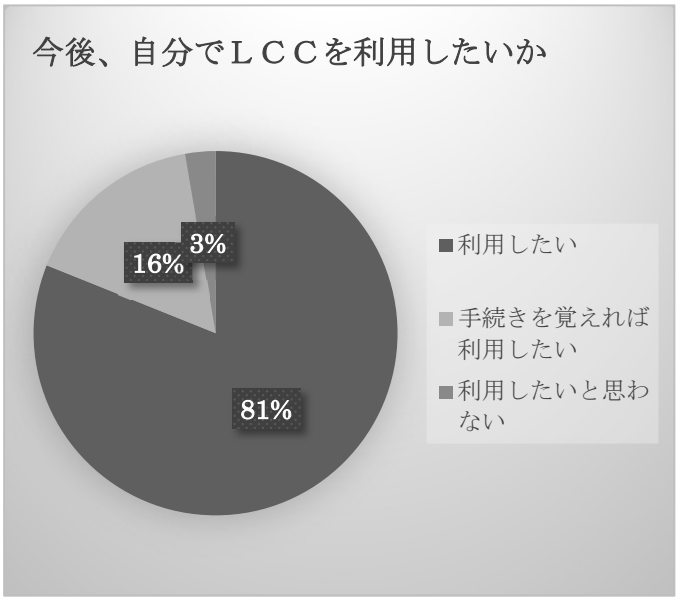
（２）代　金：４５，０００円～

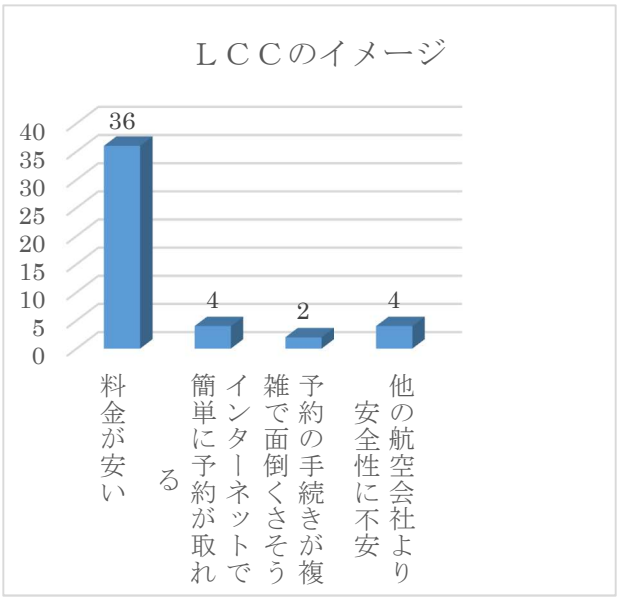
（３）参加者：３９名

（４）ツアー行程：別表のとおり

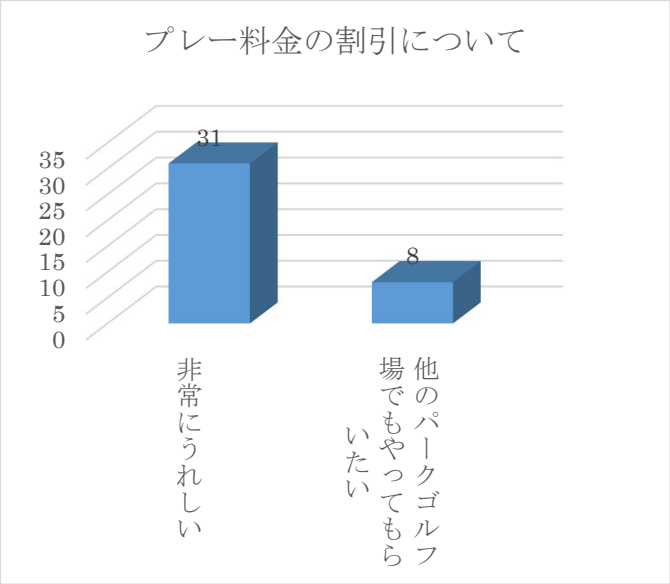
日次	月日	行程
1日目	10月4日（水）	【往路ジェットスター便】 6:30集合　8:10発　9:50着 成田空港　→✈→新千歳空港 →札幌パークゴルフ倶楽部福移の杜コース→ホテル 宿泊先：ホテルマイステイズプレミア札幌パーク
2日目	10月5日（木）	午前：ホテル7:20→札幌パークゴルフ倶楽部福移の杜コース （北海道・千葉交流パークゴルフ大会 IN 北海道） 午後：表彰式・交流会(12:30～14:30) （交流会では景品が当たる抽選会も開催） →車窓観光（大通り公園・札幌時計台）→ホテル 宿泊先：ホテルマイステイズプレミア札幌パーク
3日目	10月6日（金）	ホテル8:30→恵庭花夢里パーク→ 17:55発　19:30着 →新千歳空港→✈→成田空港　到着後　各自解散 【復路ジェットスター便】

[モニターツアーにおけるアンケート結果]





利用したいと思わない理由：手間がかかる



２　協定締結に係る調印式

公益社団法人日本パークゴルフ協会公認の北海道の４パークゴルフ場と同協会公認で関東パークゴルフ場協議会加入の千葉県の６パークゴルフ場がパークゴルフを通じた北海道と千葉県の交流を促進することを目的に協定を締結した。

（１）時　間　パークゴルフ大会開会式終了後（９：１０～９：３０）

（２）場　所　パークゴルフ大会会場内

（３）内　容　協定締結に係る調印式

（４）参加者

北海道側

恵庭花夢里パークゴルフコース（支配人　佐々木　国夫）

えべつ角山パークランド（代表取締役　日高　淑）

札幌パークゴルフ倶楽部福移の杜コース（福移の杜コースオーナー　佐藤　良雄）

メイプルパークゴルフコース（代表取締役　大藤　義賀）

千葉県側

しすいの森パークゴルフ場（支配人　増田　裕太）

タケエイ・エコパークゴルフ大木戸（支配人　吉澤　正巳）

蓮沼海浜公園パークゴルフ場（常務取締役　齊藤　光一）

フレンドパークゴルフ習志野（支配人　藤巻　一博）

成田空港活用協議会（監事　平　栄三）、（経済活性化部会長　小松　孝之）

（※オスカーパークゴルフ公園及び勝浦パークゴルフ場は欠席）

北海道・千葉交流パークゴルフ大会 IN 北海道

パークゴルフを通じた北海道と千葉県の交流促進協定書　調印式

[メディアへの露出]

□新聞　　日本経済新聞（１０月３日）、千葉日報（１０月６日）

[協力会員]

㈱ＪＴＢコーポレートセールス、ジェットスター・ジャパン㈱、千葉県レクリエーション都市開発㈱、㈱千葉日報社、成田国際空港㈱、山武市、旭市、千葉県

[総括]

●パークゴルフを活用した北海道と千葉県の相互交流については、平成２７年度から始めた道県双方での交流パークゴルフ大会やモニターツアーの実施により、パークゴルフ愛好者の間に定着してきたと感じられる。また、モニターツアーでＬＣＣを体験することにより、今後の個人レベルでのＬＣＣの利用につながっていると感じられた。

●北海道のパークゴルフ愛好者２０名がツアーにより３月中旬に来県する予定である。

●「パークゴルフを通じた北海道と千葉県の交流促進に係る協定」の締結を機に、今後の民間同士による継続的な相互交流が促進していくことに期待したい。

女子旅×成田ＬＣＣの更なる展開

平成２７年度学生連携事業として開始した『女子旅×成田ＬＣＣ』の発展形として、昨年度に引き続きターゲットである若年層の女性が多く利用するＳＮＳを活用し、千葉県やＬＣＣの魅力について情報発信を行った。

また、千葉県及び周辺都県の若年層に向けた成田ＬＣＣの利用促進を目的とし、千葉県内でのプロモーションへの参加やＬＣＣ国内線就航先の情報発信を実施した。

［展開］

１．学生によるＳＮＳ等を活用した情報発信

①Instagramアカウント『女子旅ｂｙ成田ＬＣＣ』での情報発信

・平成２８年１０月より開設した Instagram『女子旅×成田ＬＣＣ公式アカウント(jyoshitabi_naritalcc_official)』にて、「女子旅」をコンセプトとした画像を毎日紹介した。

・開始から１年５か月(※)でフォロワー数５，４００人を突破。「＃lcc 女子旅」を付与した投稿も３５，０００件を超えた。

※平成２８年１０月１８日～平成３０年3月２３日

②千葉県情報、ＬＣＣ情報の発信

・学生メンバーが実際に千葉県内のスポットを現地調査し、ブログ等で情報発信を行うとともに、ＬＣＣ情報（路線の紹介等）、成田空港情報など、学生のＬＣＣ利用にあたり関心のある情報の発信も行った。

※ブログ記事はＳＮＳ（Facebook、Twitter など）とも同期させ、各媒体を通じた情報拡散も展開した。

２．「旅」をテーマとした千葉県内イベントでのプロモーション

・日本で唯一の「旅」をテーマとした大型イベントであり、旅好きの若年層が集まる『旅祭２０１７』において、ＮＡＡと共同でブース出展を行い、参加者に対して成田ＬＣＣや千葉県内観光スポットのＰＲを実施した。

日時：平成２９年9月３日（日）１０時～２０時

場所：千葉県立幕張海浜公園

３．沖縄の学生とのテレビ電話による意見交換会

・沖縄観光コンベンションビューローの企画「学卒プロジェクト」に参加している沖縄県の学生とテレビ電話による意見交換会を実施した。

日時：平成２９年１０月２６日（木）１７時３０分～１８時３０分

内容：千葉県及び沖縄県のイメージ、ＬＣＣのイメージ、ＳＮＳの利用状況、千葉県への来訪状況　等

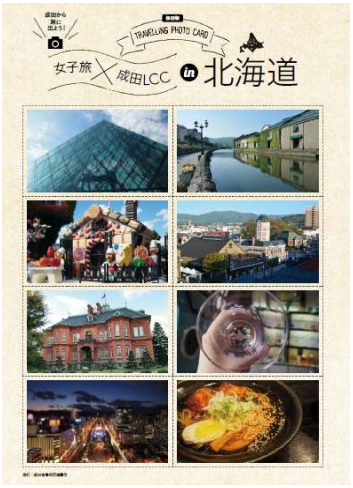
４．成田ＬＣＣを活用した就航先訪問及び情報発信

・千葉県内及び周辺都県の若年層をターゲットとし、成田ＬＣＣの利用促進やＬＣＣ就航先の認知度向上を目的に、ＬＣＣ就航先をＰＲするパンフレットを作成し、成田空港内での情報発信を行った。

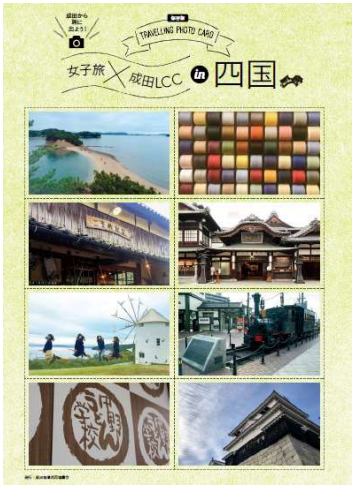
設置開始日：平成３０年３月２７日（火）

設 置 場 所：成田空港第１ターミナル　北ウイング１階国際線到着ロビー
南ウイング１階国際線到着ロビー
第２ターミナル　国内線ビル２階コンコース
第３ターミナル　本館２階フードコート脇

配布予定数：５，０００部程度



北海道パンフレット（表）



四国パンフレット（表）

・パンフレットでは、プロジェクト参加学生が成田ＬＣＣを利用して訪れた就航先（北海道及び四国）で撮影した写真や体験について紹介。

・また、裏面に掲載するＱＲコードからブログ「女子旅×成田ＬＣＣ」へ誘導を行うことで、千葉県や成田ＬＣＣの魅力発信にも繋げている。

・パンフレット設置初日に、成田空港第３ターミナルにおいて、プロジェクト参加学生によるプロモーションを実施した。

日時：平成３０年３月２７日（火）１４時～１６時

場所：成田空港第３ターミナル本館２階出入口前

内容：お客様へのパンフレット配布、「女子旅×成田ＬＣＣ」活動ＰＲ

プロモーションに参加した学生

取材を受ける学生

プロモーションの様子

プロモーションの様子

［総括］

- ＳＮＳやブログによる情報発信では、特に Instagram を利用した情報発信に注力し、多くのフォロワーを獲得することかできた。千葉県やＬＣＣの情報発信を行うブログについても、１日あたり約２００人に閲覧される媒体に成長している。
- 「旅祭２０１７」でのプロモーションや成田ＬＣＣ就航先ＰＲパンフレットの配布など、学生自らが千葉県及び周辺都県の若年層へ成田ＬＣＣを直接ＰＲする機会を設けることができた。
- 次年度以降は、「過去５年間の成果を更に拡大する事業」の中の一つとして、本事業で集めたコンテンツの活用や学生が実施する活動との連携などについて検討していきたい。

スポーツツーリズムをテーマとした就航先との交流促進

千葉県内プロスポーツチームと連携し、ビジター戦観戦には安くて、便利な成田ＬＣＣを利用してもらえるよう、観戦に訪れた野球ファンにチラシを配布するとともに、就航先チームのファンにも成田ＬＣＣの魅力を知ってもらうためラジオＣＭを通じてＰＲを行った。

また、ジェットスター・ジャパンが新規就航した宮崎において、キャンプを見に来ている野球ファンに、宮崎からプロ野球観戦などで成田空港を利用してもらうためのＰＲを行った。

［展開］

１．千葉ロッテマリーンズと連携したオープン戦での成田空港利用促進ＰＲ

オープン戦観戦に訪れた野球ファンに対し、豊富な成田空港国内線ネットワークやＬＣＣの安さの秘密、他の交通手段との比較などを紹介したチラシを配布した。

日　　程　平成３０年３月１７日（土）福岡ソフトバンクホークス戦
配布場所　ＺＯＺＯマリンスタジアム　入場ゲート
配布枚数　１０，０００枚

入場ゲートでのチラシ配布の様子

２．プロ野球オープン戦期間中のラジオＣＭを通じた成田空港利用促進ＰＲ

就航先エリア（北海道・東北・福岡）及び千葉エリアのラジオ放送局で、プロ野球オープン戦期間中に、ラジオＣＭを通じてビジター戦観戦には安くて、便利な成田ＬＣＣを利用してもらえるようなＰＲを行った。

① 北海道エリアのオープン戦ラジオ放送でのラジオＣＭ
放 送 日　平成３０年３月２日（金）、３日（土）
放送番組　北海道日本ハムファイターズ対千葉ロッテマリーンズ戦
（ＨＢＣ北海道）

② 北海道、東北、福岡エリアのラジオ番組内でのラジオＣＭ
　放 送 日　平成３０年３月２４日（土）
　放送番組　三都物語（ＨＢＣ北海道、ＴＢＣ東北、ＲＫＢ毎日）
③ 千葉エリアのラジオ番組内でのラジオＣＭ
　放 送 日　３月毎週月曜日（計４回）
　放送番組　We Love MARINES（ベイエフエム）

３．新規就航先の宮崎での成田空港利用促進ＰＲ

ジェットスター・ジャパンが新規就航した宮崎では、多くのプロ野球チームがキャンプを行っており、それを見に多くのファンが訪れていることから、ＮＡＡ及びジェットスター・ジャパンと連携のもとに宮崎からプロ野球観戦などで成田空港を利用してもらうために、出展ブースでのアンケートの実施やチラシ配布、ステージイベントを行った。

【時期】平成３０年２月１０日（土）～平成３０年２月１２日（月）
【場所】宮崎サンマリンスタジアム　出展ブース
　　３日間の会場来場者は約４，０００名

ブースでの PR の様子

ステージイベントの様子

［協力会員］
ジェットスター・ジャパン㈱、春秋航空日本㈱、バニラ・エア㈱、
㈱ベイエフエム、成田国際空港㈱、千葉県

［総括］
- 観戦に訪れた野球ファンやラジオ放送の視聴者に対して、豊富な成田空港国内線ネットワークや成田ＬＣＣの魅力をＰＲすることができた。
- 昨年度に引き続き実施したこのようなスポーツ観戦という明確な目的がある中での成田空港国内線ネットワークや成田ＬＣＣについてのＰＲは、訴求効果が大きいものと感じた。

就航先メディアを活用した情報発信について

成田空港からの国内線就航先の方を千葉へ誘客するために、地方メディアを活用した情報発信を展開した。
また、旅行会社と連携し実際に千葉県へ足を運んでもらう機会を作り、千葉県に来ていただいた方へのアンケートを実施することで、施策の効果の可視化を図った。

［展開］

１．　地方メディアを活用したプロモーション

・これまで交流を実施してきた北海道を対象に、地方メディア（テレビ及び新聞）を活用し、千葉県の観光資源やＬＣＣの利便性を知ってもらい、千葉県へ行きたいと思ってもらえるようなプロモーションを展開した。

（１）北海道でのテレビ放送

・北海道テレビ（ＨＴＢ）の情報番組内特集コーナーにて、成田ＬＣＣの利便性や千葉県の魅力・観光スポット等について紹介した。

番　　組　　名：「イチオシ！モーニング 土曜日」
放　　送　　日：平成３０年２月２４日（土）
番　　組　　枠：９０分番組（６：３０～８：００）
特集コーナー放送枠：約１５分

・番組の制作にあたり、平成３０年２月１日（木）～３日（土）に千葉県での事前ロケを実施した。

＜事前ロケ工程＞

１日目 2/１(木)	10:00 成田空港第３ターミナル　→　11:00 成田山新勝寺　→ 13:00 九十九里浜・一宮海岸　→　15:00 道の駅ちくら潮風大国
２日目 2/2(金)	8:45 房総フラワーライン・館山ファミリーパーク　→　10:10 鋸山　→ 12:30 林いちご園　→　13:30 犬吠埼灯台　→　16:30 なごみの米屋
３日目 2/3(土)	9:00 鋸山　→　12:15 成田山参道　→　14:30 佐原

ロケの様子(成田空港第３ターミナル)

ロケの様子(佐原)

（２）新聞への千葉県ＰＲ記事掲出

・ＨＴＢでの番組放送とあわせ、北海道新聞札幌本社版へ千葉県ＰＲ記事を掲出した。

掲 出 日：平成３０年２月２４日（土）
掲 出 枠：１０段カラー
発行部数：６００，０００部程度

２．北海道発千葉県ツアーとの連携による誘客及び情報収集

・旅行会社と連携し、成田空港国内線を利用した北海道発千葉県ツアーを造成・販売することで、千葉県への誘客を実現するとともに、ツアー参加者を対象としたアンケート調査による情報収集を行う。

＜ツアー概要＞

・名　　称：「ぎゅぎゅっと房総イチオシ！スペシャル」
・期　　間：平成３０年３月１９日（月）～５月２０日（日）　※二泊三日
・本　　数：１５本

・ツアー行程：

日程	内容							
1	食事条件	－・OP・夕	実車時間		実車距離		高速料金	0
	新千歳（7:50-8:00発※NH2152 0750-0925/JL3040 0755-0925）B成田（9:25/9:55※OP昼弁）＝24k＝山武・守屋酒造（10:35/11:00）＝48k＜九十九里浜ドライブ＞＝大多喜（12:20/12:44発）T＜いすみ鉄道・516D＞T大原（13:17着/13:30）＝68k＝千倉（15:10/16:20※道の駅 ちくら・潮風王国→白間津花畑）＝5k＝野島崎（16:30/17:00）＝白浜野島温泉・ホテル南海荘[泊]※17:00着予定							
2	食事条件	朝・－・夕	実車時間		実車距離		高速料金	10790
	白浜野島温泉（8:30発）＝52k＜房総フラワーライン※洲埼灯台経由／富浦→鋸南保田@＋鋸山道路＞＝鋸山（10:30/11:45※RW無し）＝4k＝ザ・フィッシュ（12:00/13:00※自由昼食）＝101k＜富津金谷→富里@7,360＞＝成田山新勝寺（14:45/17:50…18:00/18:45米屋）＝36k＜富里→湾岸千葉@2,610＞＝千葉・アパホテル＆リゾート 東京ベイ幕張[泊]※19:30着予定							
3	食事条件	朝・－・－	実車時間		実車距離		高速料金	5150
	幕張（8:15発）＝93k＜湾岸千葉→松尾横芝@3,790＞＝犬吠埼（10:15/10:45）＝5k＝銚子（11:00/11:50※ウオッセ自由昼食）＝24k＝東庄・イチゴ狩り（12:40/13:20※アイベリー＋買物）＝18k＝小江戸・佐原（14:00/15:15※乗船30分)＝5k＝香取神宮（15:25/16:10）＝32k＜佐原香取→新空港@1,360＞＝成田（16:30/17:55）B新千歳（19:40-20:40着※NH2155 1755-1945/JL3049 1845-2035）							

※５月１日時点でのツアー申込者数は４３８人

＜アンケート概要＞

・内　　容：北海道メディアＰＲの効果、千葉の魅力や満足した場所、北海道民の千葉来訪状況

・回収予定数：４００程度

[協力会員]

近畿日本ツーリスト㈱首都圏千葉団体旅行支店、(公社)千葉県観光物産協会、成田国際空港㈱、大本山成田山新勝寺、米屋㈱、千葉県、成田市

[総括]

- ２月２４日(土)に放送したＨＴＢ「イチオシ！モーニング 土曜日」は、北海道における当日同時間帯世帯視聴率第１位（９．１％、前週の同番組視聴率比＋1.2 ポイント）を記録しており、北海道民に対し、千葉県の魅力について広くＰＲすることができた。
  また、ＰＲ記事を掲出した北海道新聞は道内新聞発行部数第１位を誇る媒体であり、道民への千葉県ＰＲに適した地方メディアを活用できた。
- 現在催行している北海道発千葉県ツアー参加者を対象としたアンケート結果では、千葉の観光スポットを実際に訪問したツアー参加客からのリアルな声を得ることができるため、アンケート結果については、千葉県の更なる魅力づくりに繋がるよう、会員への共有等の活用を図っていきたい。

イ　海外向け誘客促進

ランドオペレーターとの商談会・交流会の実施について

一昨年、昨年度に続き、当協議会と千葉インバウンド促進協議会の共催のもと、会員企業、団体及び自治体にランドオペレーターを活用していただくことで、千葉県を訪れる訪日外国人旅行客の増加に向けた魅力的な旅行商品の造成に繋げ、アジアからの観光客の更なる増加を目指すため、東アジアや東南アジアの両地域を手掛けるランドオペレーターとの「商談会・交流会」を実施した。

※ランドオペレーター
主に海外旅行で、宿や観光地、現地の交通手段など往復航空機以外の「地上手配」を専門に行う会社のこと。海外の多くの旅行会社は旅行先の国に支店を有しておらず、現地に詳しいランドオペレーターに手配を委託しているため、旅行商品の造成に大きく係わっている。

［展開］

- 平成３０年２月２２日（木）にオークラアカデミアホテルにて商談会を行った。
- 商談会では、ランドオペレーター１３社に対し、３６の会員企業・団体が参加した。
- 商談の前に千葉県、（公財）ちば国際コンベンションビューロー及びＪＴＢ　コーポレートセールスから、今後のインバウンド事業に関する支援や取組について参加者に情報提供を行った。
- 商談会はランドオペレーターのブースを設置し、会員企業・団体が各ブースを回り、１コマ１０分で１２コマ実施した。また、商談会終了後の交流会で、さらなる交流を深めた。

各ブースでの商談の様子

主催者挨拶を行う大竹プロモーション部会副部会長
（ちば国際コンベンションビューロー事務局長）

［メディアへの露出］

□テレビ　　千葉テレビ（２月２２日）

　新　聞　　千葉日報（２月２４日）

［参加者等］

□会　　員　３６団体（社）６２名　（千葉インバウンド促進協議会員を含む）

［参画会員］

千葉インバウンド促進協議会

［協力会員］

（株)かずさアカデミアパーク、ＪＴＢコーポレートセールス、

（公財）ちば国際コンベンションビューロー、千葉県

［総括］

●昨年度に引き続き、千葉インバウンド促進協議会との共催により、観光・宿泊・交通と幅広い会員事業者を呼ぶことができた。

●参加者からは「商談会後も個別に連絡を取り、詳しい話を伺っている」といった声があり、具体的な事業に結びつけるためのきっかけづくりとして利用された。

●商談会後にランドオペレーター側からも施設の視察などのアプローチがあり、具体的な送客に向けた動きもみられた。

●交流会では、参加者同士が個々に歓談できる時間を増やすことで、商談会で話し足りなかった部分を補うことができた。

これまで北総地域、長生地域及び木更津地域と３回実施してきて、多くの会員と東アジア・東南アジアの両地域を手掛けるランドオペレーターとの接点の場を設けることができた。今後は、個々の会員においてＢtoＢによる訪日外国人客の誘客が期待される。

海外向け誘客の促進　WEB での情報発信

千葉県やナリタの魅力をより多くの外国人に伝えるため、会員と連携して成田空港を起点とした東京と成田空港の間の寄り道スポットや絶景について、外国人向けウェブマガジンによる多言語の情報発信を行った。

［展開］

≪ＷＥＢでの情報発信≫

○昨年度、成田国際空港株式会社と連携して、外国人向けウェブマガジン「Matcha」にて作成した成田空港特集のウェブサイトにタイ及びベトナムをメインターゲットとした多言語のＷＥＢ記事配信を行った。

○実際のタイ人やベトナム人の意見を取り入れて、外国人目線で見た魅力的なスポットについて取材を行い、日本語で作成した記事を７言語（英語、中国語（繁体字、簡体字)、韓国語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語）に翻訳。

○作成した記事に対して、Facebook 広告を運用し、ターゲットに情報の拡散を行った。

○平成３０年３月２８日（水）に記事を公開した。

■外国人向けウェブマガジン「Matcha」について

・ターゲットユーザー

国　：台湾、タイ、香港（他２４１の国・地域からアクセスあり）

年齢：２０代～３０代

属性：ＦＩＴ（個人旅行者）

・メディア概要

ＰＶ：約４，１３０，０００回／月

ＵＵ：約１，７１０，０００人／月

※ＰＶ＝ページビュー（サイトが見られた回数）

※ＵＵ＝ユニークユーザー（サイトを訪れる人の数）

■『成田空港』特集ページ

・空港でのショッピングやトランジットツアーの案内から、成田空港を起点とした千葉県内の観光地の情報まで、千葉県及びナリタの魅力を紹介する特集。

・成田空港及び空港周辺の観光地スポットの紹介による認知度と利用者数の向上、訪日客に対する「成田国際空港」＝「日本のＨＵＢ」という意識の醸成、成田空港利用者への千葉県の周遊促進をねらう。

（アドレス）https://matcha-jp.com/jp/narita/

■配信記事

① 東京と成田空港の間にある人気イチゴ狩り＆観光＆買い物スポット

・イチゴ狩り農園　　・イオンモール幕張新都心

・三井アウトレットパーク幕張　・千葉神社、千葉城

② 東京と成田空港から日帰りできるＳＮＳ映え絶景スポット

・マザー牧場　・鋸山　・富津岬（富士山）

・養老渓谷　　・濃溝の滝

［アクセスレポート］（集計期間 2018/3/28－2018/4/27）

① 東京と成田空港の間にある人気イチゴ狩り＆観光＆買い物スポット

総ＰＶ数：３５，７３３ＰＶ

≪Facebook 投稿≫

［リ ー チ］３０９，１１３（タイ語 158,140　ベトナム語 152,189）

［い い ね］　１，０３４（タイ語 717　ベトナム語 317）

［シ ェ ア］　　７０（タイ語 65　ベトナム語 5）

② 東京と成田空港から日帰りできる SNS 映え絶景スポット

総ＰＶ数：７１，００６ＰＶ

≪Facebook 投稿≫

［リ ー チ］４５８，３６２（タイ語 225,407　ベトナム語 226,428）

［い い ね］　１，４０７（タイ語 1,090　ベトナム語 317）

［シ ェ ア］　　３７１（タイ語 348　ベトナム語 23）

≪言語別ＰＶ数・滞在時間≫

言語×記事比較 記事タイトル	日本語		英語		繁体字		簡体字		タイ語		インドネシア語		ベトナム語		韓国語	
	ＰＶ	滞在時間	ＰＶ	滞在時間	ＰＶ	滞在時間	ＰＶ	滞在時間	ＰＶ	滞在時間	ＰＶ	滞在時間	ＰＶ	滞在時間	ＰＶ	滞在時間
東京と成田空港の間にある人気イチゴ狩り＆観光＆買い物スポット	194	2:27	430	2:54	999	3:19	16	1:52	13,849	2:56	81	3:51	20,110	3:00	54	3:49
東京と成田空港か日帰りできるSNS映え絶景スポット	1,922	1:45	657	3:21	1,404	3:25	45	3:40	27,544	2:09	210	4:45	39,132	1:38	92	2:41

［協力会員］

イオン（株)、三井不動産（株)、(株）マザー牧場、市原市、君津市

［総括］

- タイ、ベトナムにターゲットを絞り、Facebook 投稿による広告を効率的に行った結果、昨年度の２記事（２記事合計１７，８６８ＰＶ）よりも総ＰＶ数を大きく伸ばすことができた。
- 記事ページの平均滞在時間について、２記事とも Matcha 内の他のページの平均滞在時間（２分８秒）より、長い時間滞在されており、関心を持った読者が具体的な旅をイメージする等、読者の深い理解に繋げることができたと推測される。

（２）空港利用促進事業

ア　関東圏でのナリタＰＲ

成田空港利用促進キャンペーン

県内・首都圏における成田空港の更なる認知度向上及び利用者増を目的に、豊富な国内線・国際線ネットワークや、アクセス利便性の向上など、進化を続ける“ナリタ”の魅力について情報発信を実施した。

また、平成２９年２月２６日の圏央道つくば中央―境古河間の開通により、アクセス利便性の向上した北関東でも千葉県、成田空港の魅力を発信した。

［展開］

１　県内向け利用促進プロモーション

①県内金融機関等での成田空港ＰＲポスターの掲出及びチラシの配布

【時期】平成２９年８月７日（月）から随時

【場所】県内郵便局（６８９局）、県内会員金融機関、京成電鉄各駅　等

・食をテーマに国内線・国際線ネットワークや就航先の魅力を紹介した。

・ポスター８７７部、チラシ９，５５０部を掲出した。

チラシ・ポスターデザイン

②東葛地区でのプロモーション

【日時】平成２９年８月９日（水）１３時～１８時

【場所】ＪＲ柏駅東口前ダブルデッキ　Ｅスペース

・会員のＰＲパンフレット等の配布（４００部）、国内線ネットワークや就航ＬＣＣをＰＲするパネルの展示、「チーバくん」によるフォトグリーティング、航空機及び就航先のミニチュアを閉じこめた「氷のオブジェ」の展示を実施した。

ＰＲパンフレット等の配布の様子

国内線ネットワークやＬＣＣを紹介するパネル

航空機と就航都市のミニチュアを閉じこめた「氷のオブジェ」

「チーバくん」によるフォトグリーティング

［協力会員］

㈱グランビスタホテル＆リゾート鴨川シーワールド、ジェットスター・ジャパン㈱、千葉県レクリエーション都市開発㈱、成田空港交通㈱、県立房総のむら、成田市、柏市、我孫子市、印西市、栄町

２　首都圏向け利用促進プロモーション

○ＪＰタワー「ＫＩＴＴＥ」でのプロモーション活動

【日時】平成２９年１２月１１日（月）１１時３０分～１５時３０分

【場所】ＪＰタワー「ＫＩＴＴＥ」地下１階　東京シティアイパフォーマンスゾーン
千葉県アンテナショップ「ちばＩ・ＣＨＩ・ＢＡ」

【内容】

・出張や旅行などで成田空港を利用してもらうことを目的に、会員のＰＲチラシの配布や「チーバくん」によるグリーティング、大型モニターでのＰＲ動画の放映、抽選会などを実施し、首都圏から成田空港への充実した交通アクセスや豊富な就航先についてＰＲした。

ＰＲブース

プロモーションの様子

ステージイベントの様子

「チーバくん」によるグリーティング

ＰＲ動画の放映

［協力会員］

京成電鉄㈱、ジェットスター・ジャパン㈱、成田国際空港㈱、バニラ・エア㈱、ビィー・トランセホールディングス㈱、千葉県

３．北関東向け利用促進プロモーション

群馬でのプロモーション

【日時】平成２９年７月１日（土）１０時～１７時

【場所】けやきウォーク前橋　１階けやきコート

・会員のＰＲチラシ等の配布（８００部）やステージイベントで成田空港へのアクセス利便性の向上、国内線・国際線ネットワーク、ターミナル施設、千葉県観光などを紹介した。

ステージイベントの様子

ステージイベントの様子

会場全体の様子

ＰＲチラシの配布の様子

［協力会員］

㈱グランビスタホテル＆リゾート鴨川シーワールド、京成電鉄㈱、千葉県ゴルフ協会、千葉県酒造組合、千葉交通㈱、成田国際空港㈱、ビィー・トランセホールディングス㈱、㈱幕張メッセ、三菱地所・サイモン㈱酒々井プレミアム・アウトレット、１７市町会員

［総括］

- 郵便局、金融機関、京成電鉄各駅といった多くの千葉県民の利用が想定される施設へ掲出することにより、成田空港の豊富なネットワークや就航ＬＣＣについて広くＰＲすることが可能となった。
- 成田空港の国内線ネットワークや柏駅から成田空港までのアクセスを知らないお客様が多かったため、本イベントを通じて成田空港の利便性を周知することができ、東葛エリアの方に成田空港をより身近な存在として認識していただけた。
- イベント当日はチバテレビ「ＮＥＷＳチバ６００」の取材が入り、当日の番組内で「氷のオブジェ」をメイントピックとして本イベントについて紹介された。会場での集客だけでなくメディアへのＰＲという観点からも、季節感や話題性のある「氷のオブジェ」の展示は有効なＰＲ手段であった。

- 主に東京駅周辺在勤者を対象に、都心からの成田空港へのアクセス利便性や成田空港の豊富な就航先についてＰＲを実施した。
- あわせて、１２月２１日より新規就航したジェットスター・ジャパン宮崎線についてのＰＲも実施したことから、更に充実した国内線ネットワークや成田ＬＣＣについて来場者へ情報発信することができた。
- 成田空港の国内線・国際線ネットワークを紹介し、特にＬＣＣによる国内線の就航先の多さをＰＲした。ＬＣＣについては多くの人が知っていたが、成田空港から多くの都市へ就航していることを知らなかった。
- 圏央道（境古河ＩＣ～つくば中央ＩＣ間）の開通により、成田空港へのアクセス利便性の向上をＰＲし、併せて前橋から成田空港への高速バスの紹介をした。前橋から成田空港への高速バスが出ていることを知っている人はいたが、利用者は少なかった。

イ　ナリタファンの拡大に向けた取組

ナリタファンの拡大に向けた取組

成田空港をより身近な存在として認識し、親しみを持つナリタファンの拡大に向けては、昨年度に引き続き、今年度においても県内小学４～６年生とその保護者を対象に、親子見学バスツアーを実施した。

また、会員向けに、成田空港をより身近に感じ理解を深めていただくために空港の制限区域内の見学や空港周辺及び圏央道の将来展望などの説明を受けながら、圏央道の建設予定地等を見て回るバス見学を実施した。

［展開］

１　親子見学バスツアー

昨年度に実施した親子見学バスツアーに多数の応募があり、とても好評であったことから、今年度においても県内小学４～６年生とその保護者を対象に、親子見学バスツアーを実施した。

（１）対象

県内在住の小学４～６年生とその保護者

（２）参加人員等

計８０名（２０組４０名のツアーを２回実施）

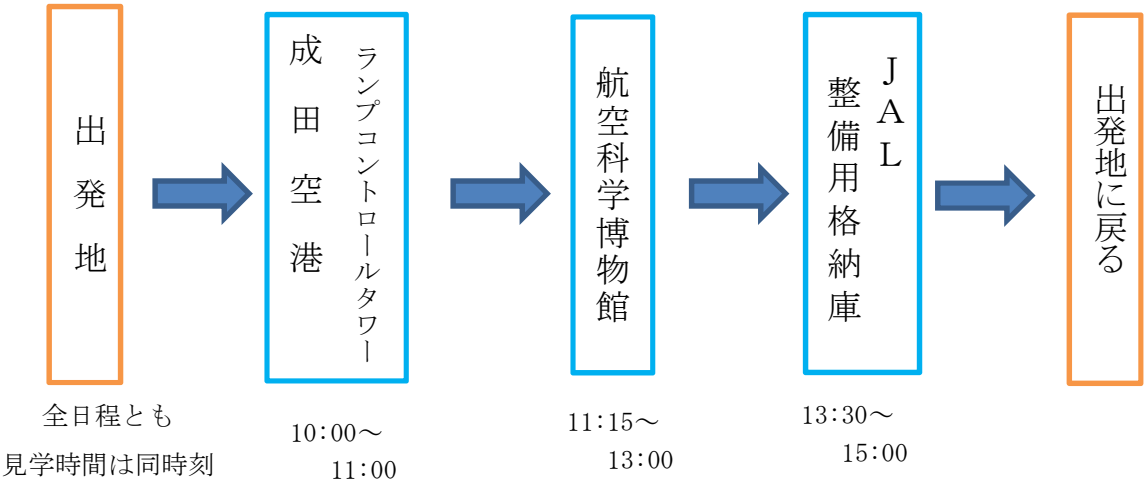
※８２７組の応募があり、抽選で参加者を決定。

（３）実施日

千葉発　：１０月２２日（日）９：００～１６：３０

柏発　　：１０月２９日（日）８：３０～１７：００

（４）行程



（５）広報

①県民だより（９／５号）に掲載

②会員市町村の広報誌への掲載依頼

（松戸市、佐倉市、大網白里市、鴨川市、御宿町等が掲載）

航空科学博物館の見学

ＪＡＬ整備用格納庫の見学

（６）参加者の感想

（ランプコントロールタワー）

・普段は入れないところでおもしろかった。

（航空科学博物館）

・案内の方の説明がわかりやすく、航空機や成田空港に関する知識がたくさん得られた。

（ＪＡＬ整備用格納庫）

・本物の飛行機を近くで見られて感動した。

・機体の外壁の細かい所など、説明をうけて驚くことが多かった。説明の仕方もユニークで楽しかった。

［協力会員］

（公財）航空科学博物館、日本航空㈱、京成トラベルサービス㈱、

千葉中央バス㈱、成田空港交通㈱、成田国際空港㈱、１３市町村、千葉県

［総括］

●４０組の募集に対し、８２７組の応募があるなど、反響が大きく、ナリタファンの獲得に効果的であった。

●特に、通常では見られないＪＡＬ整備用格納庫では、多くの参加者の関心が高く、成田空港をより身近に感じてもらえることができた。

●来年度は、学びを主に教育機関と連携した成田空港見学の実施を検討したい。

２　会員向け見学バスツアー

（１）実施日、参加人数

１０月２５日（水）１２：４５～１７：００　３８名

１１月　８日（水）１２：４５～１７：００　４８名

（２）行程

①空港第２ターミナル内会議室

「成田空港の現状と今後について」（ＮＡＡ職員から説明）

②ランプコントロールタワー見学（ＮＡＡ職員から説明）

③空港制限区域見学（ＮＡＡ職員から説明）

④空港周辺施設を車窓から見学（小松経済活性化部会長から説明）

⑤空と大地の歴史館見学（歴史館職員から説明）

空港第２ターミナル内会議室 → 空港制限区域 ランプコントロールタワー 成田空港 → 空港周辺施設（車窓見学） → 空と大地の歴史館 → 空港第２ターミナル

ＮＡＡ職員から「成田空港の現状と今後について」の説明を受ける参加会員

空港制限区域内の見学

空港周辺及び圏央道の将来展望を説明する
小松経済活性化部会長（ちばぎん総合研究所）

空と大地の歴史館の見学

（３）参加者の感想

・とても興味深いツアーでした。２０２０年に向かって成田空港、圏央道、鉄道といった社会インフラの重要性を再認識できました。また空港用地取得にかかる三里塚闘争の歴史は、土地収用の難しさと地域との共生の重要性を改めて認識することが出来て非常に有意義なものとなりました。個人的には成田空港の国内最高レベルの様々な「警備体制」について知る機会があれば良いと思いました。

・上海や北京などアジアの他の地域で北米直行便が増えて成田空港で乗り継ぎをする人が減っていること、アジアの他の主要空港は２４時間運用なのに成田空港は夜間飛行制限があることなどの不利な状況に対し、利用客を確保するためにインセンティブや機能強化などの様々な努力をされていることを初めて知り、良い機会になりました。

・滑走路における制限区域については、Ｂ滑走路側も見学してみたかった。また、圏央道の建設予定地を周回できたのは、わかりやすくてよかったと感じる。ツアー行程が変化した際は、また参加したいと感じた。

・このようなツアーを一般に募集ができるようになれば、観光素材として十分な集客力があると思う。

［協力会員］

千葉交通㈱、㈱ちばぎん総合研究所、成田国際空港㈱

［総括］

●「成田空港の現状と今後」、「空港周辺及び圏央道の将来展望」などの説明や空と大地の歴史館での見学を通して、成田空港の過去の闘争の歴史と今後の機能拡充についての理解が進んだ。

●通常入ることのできない空港制限区域からの見学など、成田空港をより身近に感じてもらえることができた。

（３）ビジネス支援事業

ア　会員の新たな事業・ビジネス展開に向けた協働の場づくり

成田空港からの二次交通等に関する研究会

千葉県旅館ホテル組合等４団体から「成田空港と外房地区を結ぶバス路線」について提案を受け、提案団体・地元自治体等の関係者を中心に研究会を設置した。
バス運行シミュレーションの試算・千葉県バス実証実験結果により、バス運行採算人員を確保することが難しいことがわかり、地元の魅力づくりを図るため、研究会のテーマを「インバウンド誘客」へと変更し、ランドオペレーター２社との意見交換会・現地視察を実施した。

[研究会立ち上げ経緯]

○平成２５年度の会員提案事業で、「千葉県旅館ホテル組合」他３社より、「外房地域への誘客のために成田空港と鴨川を結ぶバス路線を設置してもらいたい」との提案があり、また、平成２６年度総会にて、千葉県旅館ホテル組合の武田理事長より、「成田空港から南房総の観光地・ホテルへのバス路線の検討を」との発言があったこと等により、平成２６年度第３回幹事会（８月８日開催）にて承認を受けた。これにより二次交通等研究会開催に向けて、提案団体、地元自治体（鴨川市、勝浦市）等と調整し、研究会メンバー、内容等について、話し合い、会議開催に至った。

（平成２８年度研究会は、平成２９年３月２８日開催第７回幹事会で報告済）

[展開]

１．事業の概要

（１）研究会のメンバー

地元自治体　（鴨川市、勝浦市）
地元観光業者（千葉県旅館ホテル組合）
地元観光団体（鴨川市観光協会、勝浦市観光協会）
地元商工会　（鴨川市商工会、勝浦市商工会）
千葉県（空港地域振興課、観光企画課、観光誘致促進課）
成田国際空港㈱
ちばぎん総合研究所

２．平成２９年度研究会の概要

●JTB ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ &ﾄﾗﾍﾞﾙ（ＧＭＴ）との意見交換会に向けた事前説明会

平成２９年７月２０日（木）千葉県経営者会館１３：００～１４：００

①意見交換会　９月開催予定

②プレゼン準備

③現地視察　１１月～１２月開催予定

④海外からの旅行プラン組入

※上記に引続き、関係者によるプレゼン資料の打合せを行なった。

事前説明会の様子

●ＧＭＴとの意見交換会のプレゼン打合せ（予行演習）について

平成２９年８月２８日（月）成田国際空港㈱　１４：００～１５：２０

①鴨川市プレゼン、質疑応答

②勝浦市プレゼン、質疑応答

③９月２２日意見交換会の注意事項等

●ＧＭＴとの意見交換会

平成２９年９月２２日（金）ＧＭＴ本社　１４：３０～１６：３０

①ＧＭＴの事業説明

②鴨川市・勝浦市よりの魅力紹介

③質疑応答、意見交換

④現地視察会の実施

意見交換会の様子

勝浦市よりのプレゼンの様子

●ランドオペレーター（ＧＭＴ）による現地視察

平成２９年１２月１１日（月）～１２月１２日（火）

① 鴨川市

鴨川市長表敬訪問、鴨川シーワールド、ホテル視察（鴨川シーワールドホテル、鴨川館、鴨川グランドホテル、鴨川ユニバースホテル）

鴨川ユニバースホテル宿泊

農家民泊（太右ヱ門、五郎兵ヱ）、大山千枚田

② 勝浦市

カッピービジターセンター、遠見岬神社、本行寺、松の家旅館、覚翁寺、高照寺、レンタサイクル周遊コース（八幡岬公園、官軍塚）、ホテル視察（勝浦ホテル三日月）

鴨川市長とＧＭＴとの面談の様子

鴨川シーワールドの見学の様子

ｶｯﾋﾟｰﾋﾞｼﾞﾈｽｾﾝﾀｰでの様子

遠見岬神社の様子

●二次交通研究会まとめ

平成３０年３月１４日（水）プラザ菜の花　１３：００～１４：４０

① ＧＭＴによる現地視察の感想・成果

鴨川市・勝浦市・旅館ホテル組合

② 千葉県観光誘致促進課より

バス補助事業の説明

③ ＧＭＴの商品化進捗状況

④ 二次交通研究会の総括

二次交通研究会まとめの様子

［２年間の研究会の流れ］

『１．バス運行シミュレーション』

○成田空港から勝浦・鴨川へのバス運行シミュレーションでは、定期便（通年）４７，３００円／便、運賃２，５００円（ＪＲ成田空港～蘇我～安房鴨川、特急料金込の運賃３，１９８円を参考に算定）運行時間(成田空港～勝浦１時間５０分、成田空港～鴨川　２時間２５分、途中休憩あり、圏央道経由）の条件を基に、採算人員は、１９人と算出された。(チャーター便では、採算人員２１人）

『２．千葉県バス実証実験』

○千葉県のバス実証実験（ちばストーリー）は、平成２７年及び平成２８年に期間限定（４５日間）で２か年実施した。平成２７年は、利用率が２０．４％（９．１人／台、運賃無料)、平成２８年は、利用率が８．４％（３．７人／台、成田空港利用者以外は有料）と低調な結果であった。
千葉県交通計画課より、採算性が厳しく直ちに本格運行につなげることは難しいとの結果報告があった。

『３．研究会のテーマを二次交通からインバウンドに変更』

○上記の『１．バス運行シミュレーション』、『２．千葉県バス実証実験』にて、シミュレーションにより利用人員（採算ライン）１９人に対して、バス実証実験では、３．７人／台と、採算ラインを大幅に割りこんでおり、採算人員を確保することが難しいことがわかった。
また、国内人口が減少しており、今後はインバウンドにシフトせざるを得ないことがわかり、研究会のテーマを「インバウンド誘客」へと変更することとなった。

『４．㈱ＰＥＪとの意見交換会及び現地視察』

○県内に本社がある㈱ＰＥＪ（アジア系に強い）とのランドオペレーターの商談会をきっかけとして、ランドオペレーターとの意見交換や現地調査を実施した。視察・体験場所についての意見交換会をし、ランドオペレーターの感想・評価を聞くことができた。

『５．先進地視察』

○高山市への先進地視察にては、高山市・高山グリーンホテル・飛騨の里・平安楽・朝市・免税店ショップを視察した。東京から新幹線・特急を利用しても４時間３０分程度かかると交通事情にもかかわらず、昭和６１年より開始し、３０年以上も前からインバウンドに工夫をこらして積極的に取組んでいることがわかった。主産業が観光だけとの高山市の状況もあり、視察により、具体的な事例も紹介いただき、先進事例をまのあたりにし非常に参考になった。

『６．㈱ＪＴＢｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ＆ﾄﾗﾍﾞﾙ（ＧＭＴ）との意見交換会及び現地視察』

○平成２８年度㈱ＰＥＪとの意見交換会及び現地視察に加え、平成２９年度は、国内最大手のランドオペレーターであるＧＭＴとの意見交換会及び現地視察を実施できた。地元自治体（鴨川市長との面談も含め）・観光施設・宿泊施設・農家民泊等とのきっかけづくりができ、今後につなげることができた。

『７．ランドオペレーターとのかかわりによる実績・現状』

○ＧＭＴとの意見交換会・現地視察をきっかけとして、シンガポールＪＴＢアジアパシフィックで鴨川を含む旅行商品が造成され、現在シンガポールにて販売募集中である。（旅行出発予定日５月２５日、２７日、２９日、５泊８日）

○鴨川市では、平成２９年度ＧＭＴと連携し、アメリカ人十数名（７０歳代）のインバウンドの誘致に成功したという実績があった。（農家民泊）

○㈱ＰＥＪによる１泊２日の宿泊料金の価格設定が非常に厳しく、さらに食事に付加価値、具体的には地元の特産品等サプライズのニーズがあり、ホテルの採算を考慮すると現状では非常に難しく、成約には至っていない。

『８．鴨川・小湊温泉シャトルバス』

○鴨川・小湊温泉シャトルバス協議会が中心となり、平成１７年度より運行を開始した東京浜松町と鴨川地区を結ぶ「鴨川・小湊温泉」シャトルバスについては、今年度を持って運行を終了することが決定されている。

［総括］

●ＧＭＴとの意見交換会・現地視察を実施したことにより、シンガポールＪＴＢアジアパシフィックで鴨川を含む旅行商品が造成され、販売されていることは、大きな成果である。

●本研究会を通して、二次交通には、まず地域を知ってもらい多くの人々に来てもらうことが優先であり、インバウンドの誘致に成功した事例からもわかるように、地元の魅力づくりが大切であるとの認識を持つことができた。

●今後は、２年間の研究会の内容を活かして、各自治体単独でなく広域連携も視野に入れて、鴨川市・勝浦市が中心となり、地元の受入体制ならびに魅力づくりを行っていくこと。また、今回接点ができたランドオペレーターと連絡を密にし、積極的に売り込んで、今後の商品造成に繋げることも大切である。

●本研究会としては、繰り返しとなるが、二次交通・三次交通に繋げていくためには、地元が中心となってこれまで以上に地元の魅力づくり・知名度アップを図っていくことが適当であると考える。

イ　経済活性化セミナー

第１回県内経済活性化ビジネスセミナー
～圏央道開通で６つの高速道路と結ばれる成田空港～

平成２９年２月２６日に圏央道境古河ＩＣ－つくば中央ＩＣが開通したことを受け、会員に千葉県・成田空港と東北・北関東が圏央道でつながる意義・効果から未開通区間（大栄ＪＣＴ－松尾横芝ＩＣ）の早期開通の必要性を考える「平成２９年度第１回経済活性化ビジネスセミナー」を開催した。
併せて、今回の圏央道開通により、埼玉県東部を始めとした北関東と成田空港が直結したことを体感するバスツアーも開催した。

小松部会長（㈱ちばぎん総合研究所）のバス内での講演

セミナー会場の様子

水野参与（㈱ちばぎん総合研究所社長）の主催者挨拶

国土交通省鈴木道路企画官の講演

幸手市手島政策調整課長の講演

大和ハウス工業㈱竹林事業部長の講演

［展　開］

ア　セミナー

①『インフラ整備を取り巻く状況と道路整備』
　国土交通省関東地方整備局道路部　鈴木道路企画官

②『圏央道の開通の意義と期待』
　幸手市政策調整課　手島課長

③『圏央道の整備効果と成田空港をにらんだ物流戦略について』
　大和ハウス工業㈱　竹林事業部長

イ　圏央道体感ツアー

『成田空港と圏央道整備による千葉県の発展方向と課題』
　㈱ちばぎん総合研究所　小松調査部部長

［参加者等］１０３名

□会員　５２団体（社）　９９名

□メディア　３社　４名

［アンケート結果］　Ｎ＝７１

① セミナーの内容について

・大いに参考になった　４５．１％
・ある程度参考になった　５４．９％
・あまり参考にならなかった　０．０％

（主な意見）

・圏央道を取り巻く異なる視点での３つのお話は興味深いものであった。

・圏央道の開通により、企業誘致が進んでいる現場を見て、話を聞けて大いに参考になった。

・小松調査部部長のお話は、千葉県の発展のカギを握る成田空港と圏央道の重要性がよくわかり、大変参考になりました。

② 圏央道の開通効果について

・大いにわかった	４６．５％
・ある程度わかった	５２．１％
・どちらでもない	１．４％
・わからなかった	０．０％

（主な意見）

・様々な面で効果が波及していると思うが、特に物流面の効果、単に物を運ぶだけでなく、雇用、労働環境（企業立地を含め）の改善など、高速道の持つポテンシャルは高いと感じた。

・圏央道の開通により、道路通過自治体やインター立地自治体は地域活性化の可能性が大いにあることがわかった。

［総 括］

● 成田空港と埼玉県東部を始めとした北関東が圏央道でつながった時機を捉えてセミナー・バスツアーを実施したため、会員の関心も高く、圏央道開通の意義と効果について、会員に強く印象付けることができた。

● 国、地元自治体、民間開発業者とそれぞれの立場から圏央道開通について講演をいただくことで、会員に対して多岐にわたる情報を提供することができた。

● バスツアーでは、車内にて講演を実施するとともに、圏央道沿いに新たな物流センターが建設されているのをバス車内より見学でき、圏央道のプラス効果を、より実感することができた。

● 千葉県内の未開通区間についても、早期開通が必要であると多くの会員が認識したため、今後、早期開通を求める機運がますます醸成されていくことが期待できる。

第２回県内経済活性化ビジネスセミナー

平成２８年度に実施した「千葉県のインバウンドの対応力向上に向けた調査」の調査結果について、会員のビジネスチャンスやインバウンド施策につなげるため、「２０２０年東京オリ・パラに向けてインバウンド観光のレガシーをつくろう！～千葉県のインバウンドの対応力向上に向けた調査結果報告～」と題したセミナーを、平成　２９年度総会に併せて実施した。

主催者挨拶する小松部会長（㈱ちばぎん総合研究所）

講演する関部長（㈱ちばぎん総合研究所）

講演の様子

会場の様子

［展開］

- 本セミナーでは、「２０２０年東京オリ・パラに向けてインバウンド観光のレガシーをつくろう！～千葉県のインバウンドの対応力向上に向けた調査結果報告～」と題して、調査を受託した㈱ちばぎん総合研究所の関調査部長が講演を行った。
- セミナーでは、調査結果の概要を説明し、“ちば”ならではの魅力づくり、徹底したマーケティングの実施、“ちば”ならではのおもてなしの提供及び広域連携と二次交通への対応等について提言した。

［参加者等］

□会員　１２７名

［アンケート結果］　Ｎ＝４４

○セミナーの内容について

・大いに参考になった　　５２．３％
・ある程度参考になった　　４５．５％
・あまり参考にならなかった　　２．２％

（主な意見）

・インバウンドの取り込みの必要性を理解できた。対応の重要性（集客について）と対応のポイントが理解できた。
・他市の取り組みやインバウンドに取り組んでいる業者は業績が良いということがわかり参考になった。
・全国世界的事例をもちいた説明は非常にわかりやすかった。

○今後取り組むべきことについて

・大いにわかった　　２５．０％
・ある程度わかった　　５９．１％
・どちらでもない　　１５．９％
・わからなかった　　０．０％

（主な意見）

・Ｗｉ－ＦｉやＴＡＸＦＲＥＥ、多言語対応等、基本的なインフラを整える必要があり、まずは、必要なインフラについてすぐにでも取り組む必要があると感じました。
・各市町村へのＷｉ－Ｆｉインフラを提案していく。
・インバウンド観光に対応できるタクシー乗組員の充実、拡大を図っていきたい。

［総括］

● 本調査の実施については、県内企業、団体及び自治体のインバウンドへの対応や態度を把握することができた点、今後のインバウンドの対応を考えるデータを提供することが出来た点など、一定の意義があった。
● セミナーについては、総会後に実施したため、多くの会員に参加いただくことができた。

第３回県内経済活性化ビジネスセミナー

年々訪日外国人客が増加しており、一方、国内旅行需要が減少する中、如何にインバウンドを取り込んでいくかが観光による地域経済活動を活性化するうえで重要な鍵となる。
昨年度は、インバウンドの現状や高山市をはじめとする先進事例をテーマとしてセミナーを実施した。
今年度は、外国人有識者による知見を得ることで、戦略的にインバウンド対策に取り組むなど、会員等の理解をより一層高めることを目的として、セミナーを開催した。

１．**日　時**：平成２９年１１月２７日（月）１１：００～１２：３０

２．**場　所**：オークラホテル千葉

３．**テーマ**：インバウンド観光需要をいかに千葉県経済の活性化につなげるか

４．**講演者**：デービッド・アトキンソン氏

［プロフィール］

●略　歴

２００９年　㈱小西美術工藝社入社　取締役就任
２０１４年　代表取締役社長就任

●所属委員会

２０１５年　日本遺産審査　委員
２０１７年　東京２０２０有識者懇談会委員
２０１７年　次世代の観光立国実現に向けた観光財源のあり方検討会委員

●主な著書

新・観光立国論（東洋経済新報社）
世界一訪れたい日本のつくりかた（東洋経済新報社）
新・所得倍増論（東洋経済新報社）

［セミナー概要］

●セミナーでは、同氏の著書である「新・観光立国論」にもあるように、日本の歴史・文化については大事な観光戦略のひとつであるが、大きな観光戦略を実現していくためには、そこまでは役に立たないという現実を知る必要がある。例えば、観光写真の３割は桜がアップされているが、大きな魅力にはなりえない。
日本の外国人向け観光発信と外国人観光客の求めるものとのギャップが非常

に大きいことを力説した。
●観光戦略の成否は、５つ星ホテルによって決まる。
日本は、ホテル数でいうと世界で４６位。
５つ星ホテルの数とその国の観光収入の相関関係は９１％と高い。

●日本の海外よりの評価では、沖縄（ビーチ）が高く評価されており、特に日本は海岸線で美しいビーチがあるにもかかわらず、発信されていない。ポイントはアクティビティを用意することにより、どんどん人が来て、滞在時間が長くなっていくこと、また、二条城の朝ごはん体験、高山のサイクリングツアー等の具体的な事例をあげて、説明した。

アトキンソン氏による講演

セミナーの様子

［参加者等］

□会員　　８２団体（社）１３７名

［アンケート結果］

○現在、インバウンドに取組んでいますか。

・積極的に取組んでいる　２８％
・取組んでいる　５９％
・取組んでいない　８％
・検討中である　５％

○今後のインバウンドの取組の参考となりましたか。

・大いに参考になった　７９％
・ある程度参考になった　２１％

［主な意見］

・データを積み上げて分析されている点がとても理解しやすく、明確に今後のインバウンド受入の課題が認識できた。

・外国人のニーズ把握が重要である。国籍よりは距離を考える。5 つ星ホテルの数が日本は少ないといった視点や科学的根拠に基づいた、説得力がある説明が大変参考になった。
・日本遺産を活用した隣接団体の連携による観光振興の必要性を実感した。

［総括］

●アンケート結果から、「インバウンドに積極的に取組んでいる、取組んでいる」の回答が８７％と高く、また、「今後のインバウンドの取組の参考となった」が１００％と参加会員の満足をえることができ、インバウンドに対する会員の関心が高く、セミナー開催に一定の意義があった。

●デービッド・アトキンソン氏は、日本遺産審査委員や東京２０２０有識者懇談会委員等を務めていることから時機に適した講師であり、データに基づく説明、外国人の視点の提供により、課題の認識や今後の施策の必要性を示唆するなど、会員ニーズに資するものとなった。

※セミナー内容については、会員専用ホームページを参照ください

ウ　マーケットリサーチ

成田空港国内線の利用状況と国内線を利用する来県者動向に係る調査

平成２５年度に「成田空港国内線の利用状況と国内線を利用する来県者動向に係る調査」を行い、調査結果を基に各種事業を展開した。調査を再度行うことで成田空港活用協議会の取り組みの成果を計る指標の１つとするとともに、成田空港活用協議会の会員が千葉県内の観光・産業振興の取り組みに幅広く活用するための基礎資料として会員へ情報提供を行った。

［展開］

- 本調査は、全国の１５歳以上の男女６，１００名を対象に成田空港国内線の利用　動向、千葉県への来県者動向及び成田空港までのアクセスの利用状況などについて、インターネットによるアンケート調査を行った。
- 調査結果についてプレスリリースを行うとともに､会員へ情報提供を行った。

［主な調査結果］

≪成田空港国内線の利用動向≫

・目的地のトップ５は、北海道（２４．６％)、海外（１５．９％)、東京都（１３．４％)、沖縄県（１２．３％)、福岡県（１１．２％）となっている。千葉県は５．５％（前回調査比＋０．３ポイント）で全国７位であった。
・利用回数は、１～４回の利用者の割合は約８割と多い。５回以上の利用者が「個人での旅行・観光」を中心に前回調査比で増加した。
・利用航空会社は、ＬＣＣ利用者のシェアが３６．２％（前回調査比＋２１．２ポイント）とＪＡＬ・ＡＮＡの水準を上回った。

≪千葉県への来県者動向≫

・千葉県内の訪問地は、浦安市、千葉市、成田市、船橋市、市川市がトップ５となっており、浦安市の大幅増加が目立った（前回調査２９．５％→今回調査３９．２％)。
・千葉県への訪問目的では「テーマパーク、名所旧跡など観光スポットめぐり」、「お風呂・温泉でくつろぐ」、「おいしいものを食べる」などの割合が増加した。
・千葉県への訪問回数は、「１０回以上」が３２．１％と前回調査比＋６．０ポイントとなった。

≪成田空港までのアクセス≫

・成田空港までのアクセス（２次交通）に満足したという回答は約６割を占めており、満足した理由としては、「運行本数が多い（または適正）」及び「運賃や料金等が安い（または適正）」が前回調査比増加した。
・国内線利用者の首都圏中央連絡自動車道と東京湾アクアラインの利用状況は、圏央道が４２．５％（前回調査比＋１９．９ポイント）、「東京湾アクアライン」が３４．３％（同＋１３．６ポイント）となっている。
・格安バスの認知度（格安バスの未利用者が対象）は４１．９％（前回調査比＋１０．４ポイント）となっている。

［総括］

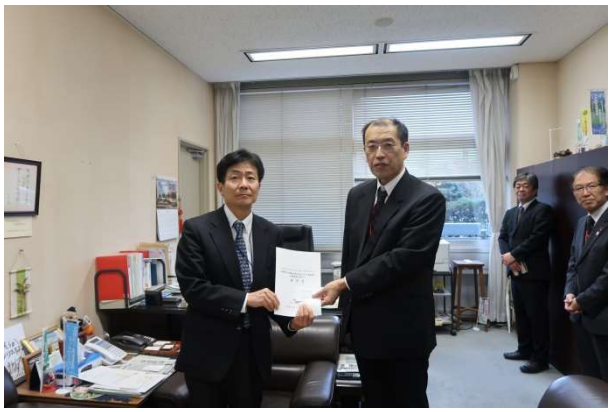
● 国内線就航地の在住者の目的地として、千葉県が東京都、海外、北海道に次ぐ全国４位（前回調査７位）となり、国内線利用者の県内観光推進の取り組みの成果が見られた。
● ＬＣＣ未利用者の学生のうち、ＬＣＣを知っていると回答したのは５３．５％（前回調査比＋１１．２ポイント）と大幅に増加しており、若年層向けの国内線ＬＣＣ認知度向上に関する取り組みの成果が見られた。
● 首都圏民※の羽田ではなく成田空港を利用した理由として、「格安航空会社（ＬＣＣ）を利用したいから」が２８．８％（前回調査比＋１３．４ポイント）と大幅に増加、また、リピーター（５回以上の利用者）が「個人での旅行・観光」を中心に前回より増加していることから、首都圏向けの成田空港利用促進の取り組みに成果が見られた。

※東京都、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県、山梨県在住者

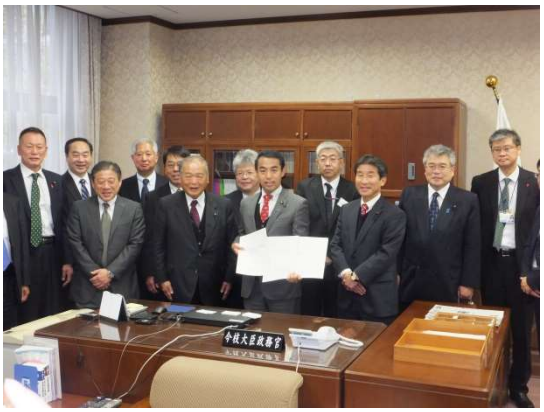
（４）要望活動

首都圏中央連絡自動車道及び北千葉道路の整備推進に関する要望

東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う訪日外国人の増加により、成田空港の果たす役割はますます大きくなっている。この成田空港から生じる経済的な効果を県内はもとより首都圏に波及させるためには、交通網の整備が極めて重要であり、その基幹インフラとなる首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と北千葉道路の一日も早い開通が不可欠であることから、整備推進等について県内関係２団体とともに平成２９年１１月２７日（月）に国に対して要望活動を実施した。



国土交通省道路局長への要望



財務大臣政務官への要望

要望活動の様子

［展開］

- 県内関係２団体（千葉県議会首都圏中央連絡自動車道推進議員連盟、首都圏中央連絡自動車道建設促進県民会議）とともに、国等に対して要望活動を実施。

≪要望先≫

・財務大臣、財務副大臣、財務大臣政務官、財務事務次官　ほか８名
・国土交通大臣、国土交通副大臣、国土交通大臣政務官、国土交通事務次官、道路局長　ほか２０名
・県選出国会議員

≪要望内容≫

1　圏央道の一日も早い全線開通を図ること。
・大栄・横芝間については、用地取得並びに工事を確実に進め、早期に開通目標を設定し、圏央道の一日も早い全線開通を図ること。
・暫定２車線区間については、早期に４車線化に着手し、一日も早く完成させること。
・圏央道のストック効果をより高めるインターチェンジへのアクセス道路が確実に整備されるよう、予算の重点配分を行うこと。

1　北千葉道路の早期整備を図ること。
・全線開通の実現に向け、西側区間（小室ＩＣ以西）の早期事業化を図るとともに、全線を直轄管理区間とすること。
・北千葉道路の西側区間（小室ＩＣ以西）の自動車専用道路については、直轄事業と有料事業の合併施行の計画とし、一般部を併設した規格の高い道路を早期に整備すること。
・北千葉道路の成田市内の事業中区間については、速やかに事業を完了すること。

1　国内外からの観光集客や産業の振興を促進し、地域経済に好循環をもたらすストック効果を早期に発揮させるよう、圏央道及び北千葉道路といった民間投資を誘発するストック効果の高い道路事業をより推進するため、平成３０年度は圏央道を含めた道路予算全体を増額するとともに、平成２９年度の道路予算においても増額補正を措置すること。

［総括］

● この２つの道路は、成田空港の利便性向上や成田空港の経済効果を千葉県全体、首都圏全体に波及させるために不可欠な基幹インフラであることから、今後も引き続き要望活動を続けていく。

（５）会員提案の募集・具体化

○ 会員提案の募集

圏央道等の交通インフラの整備進展と併せて、利便性がますます向上する成田空港を活用して、本県の経済活性化につながる取組として、平成２９年度事業計画（素案）の中で、協議会と連携・協働したい事項に係る提案及び協議会事業全般についての自由意見を募集した。

≪主な提案≫（提案件数２４件）

・成田空港と県内観光地を結ぶ高速バス実証運行事業が本格運行につながるようなＰＲ・情報発信
・パークゴルフを活用した国内線就航先との交流促進
・成田空港への交通路として、成田線（我孫子駅～成田駅間）との連携
・圏央道でつながる北関東エリアで行われる観光イベント等への出展
・成田空港見学ツアーの周知及び参加者募集
・圏央道の早期全線開通にかかる要望活動
・北千葉道路整備の早期事業化にかかる要望活動
・日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会と連携したプロモーション活動
・スポーツツーリズムと食をテーマとした相互交流
・北海道のメディアを通した千葉県と成田空港のプロモーション

○ 会員提案の検討・具体化（平成２９年度事業への取り入れ）

平成２９年度事業計画に位置付けられている以下の事業に会員提案を取り入れ実施した。

・北海道・千葉パークゴルフ交流大会及びモニターツアーの実施（Ｈ２６提案）
・スポーツツーリズムをテーマとした国内線就航先との連携（Ｈ２８提案）
・就航先メディア等を活用した千葉の魅力や成田ＬＣＣ等の情報発信（Ｈ２９提案）
・ランドオペレーターとの商談会の実施（Ｈ２６提案）
・県内の東葛エリアでのプロモーションの実施（Ｈ２９提案）
・北関東エリアの商業施設等でのイベント開催（Ｈ２８提案）
・成田空港からの二次交通の確保に向けた検討（Ｈ２７提案）
・国内線利用動向調査（Ｈ２９提案）
・圏央道の早期全線開通にかかる要望活動（Ｈ２５提案）
・北千葉道路整備の早期事業化にかかる要望活動（Ｈ２５提案）

（６）その他

● 協議会の活動を広く広報するため、プレスリリースはもとより各種メディア媒体の利用や報道機関へのアプローチを展開することにより、メディアへの露出を積極的に図った。

《プレスリリース実績》　９件

（平成２９年）

４月１３日　「平成２９年度第１回県内経済活性化ビジネスセミナー～圏央道開通で６つの高速道路と結ばれる成田空港～」

５月２３日　「平成２９年度成田空港活用協議会総会及び第２回県内経済活性化ビジネスセミナーの開催について」

８月　４日　「千葉県民向け成田空港利用促進キャンペーン企画！！～柏駅東口前で冷た～い氷のオブジェが皆様を待っています！～」

９月２９日　「～成田空港を活用した北海道と千葉県との相互交流事業～『北海道・千葉交流パークゴルフ大会ＩＮ北海道』を開催します！　道県のパークゴルフ場間で協定を締結し、更なる交流を促進します。」

１０月１３日　「ナリタファンの拡大を目指して、今年も『成田空港親子見学バスツアー』を実施します！」

１１月２１日　「平成２９年度成田空港活用協議会臨時総会及び第３回県内経済活性化ビジネスセミナーの開催について」

１２月１４日　「『成田空港国内線の利用状況と国内線を利用する来県者動向に係る調査』を実施しました！！　～ＬＣＣ利用者のシェアが大幅に増加！～」

（平成３０年）

２月１６日　「ランドオペレーターとの「商談会・交流会」の実施についてアジアからの観光客の更なる増加を目指します！」

３月２０日　「学生連携プロジェクト【女子旅×成田ＬＣＣ】成田ＬＣＣで『インスタ映え』の旅を楽しもう！～成田ＬＣＣ就航先パンフレットの制作及び学生によるプロモーションの実施について～」

《広告等掲載実績》３件

（平成２９年）

７月２５日　月間パークゴルフ新聞

（平成３０年）

２月２４日　北海道新聞

３月２３日　日刊工業新聞

《ＰＲ媒体等の制作》

・パークゴルフ北海道・千葉相互交流ＰＲポスター　５０部
・パークゴルフ北海道・千葉相互交流ＰＲチラシ
　千葉県版　１，５００部
　北海道版　１，５００部
・プロ野球オープン戦配布チラシ　１０，０００部
・金融機関等掲出用空港利用促進ポスター　１，０００部
・金融機関等掲出用空港利用促進チラシ　１０，１５０部
・北関東キャンペーン配布チラシ　１，０００部
・女子旅×成田ＬＣＣ就航先ＰＲパンフレット　５，０００部